

令和2年度 上田市立北小学校 学校自己評価シート 評定＝A：できている B：だいたいできている C：あまりできていない D：全くできていない

学校教育目標		総 合 評 価		
「花とみどりと笑顔の学校」 ～ あふれる あいさつ かよいあう 心 ～		・コロナ禍で制約の多いなかではあったが、活動の内容や行い方を工夫して、子どもたちが友だちや地域の方々とかかわり合う活動や発表の場を位置づけ取り組むことができ、心を通い合わせることができた。 ・マスク着用のせいもあるのか、あいさつについては「あふれる」という状況にはまだまだ至っていない。落ち着いた生活ができている反面、活気にやや欠ける面がある。		
10年後、20年後に大輪の花を咲かせるための今の創造 「今の努力が未来に続く、今を精一杯」				
今年度の重点目標		成果と課題	評価	改善策・向上策
よくふれあい…「友だちをいっぱいつくろう」 ・教師は、子どもが他者とつながることをサポートしたり、子どもと関わり合ったりすることができたか。		・コロナ禍で例年のようにできないことも多かったが、この状況下でできることを考え工夫して他者とかかわる活動ができた。 ・3密をさけなければならないなかでも、子どもの工夫と職員の配慮により、ふれあう活動ができていた。	A	・コロナ禍ではあるが、多様な他者とのふれあいは本校の特色でもあるので、活動内容や行い方をさらに工夫していく。 ・子どもたち同士のかかわりの広がりから地域の方々とのかかわりへと目が向いていくような活動を工夫していく。
よく学 び …「思いや考えを伝えよう」 ・教師は、子どもが目を輝かせ、思考力・表現力を高めていく授業を行うことができたか。		・高学年の算数ではコース別学習を取り入れ、一人一人が自分に合ったペースで学習を進められるようにした。やる気や関心が高まった。 ・子どもたち自らが問いをもち、考え深めていく学習のための支援を、さらに研究していく必要がある。	B	・より主体的な学びから思考力や表現力を高めていくことができるように子どもの「願い」や「問い」を大切にし、子どもの意識に沿った展開で個々の考えをつないでいく授業を工夫していく。
よく遊 ぶ …「たくさん遊ぼう」 ・教師は、ハッピータイム（水曜日は清掃なしで長い昼休みとする）等で子どもたちと一緒に遊び楽しむことができたか。		・時間を保証することで、子どもたちは存分に遊ぶことができています。 ・仲間や遊び内容が広がるための支援を考えたい。	A	・朝の学級活動を活用し、子どもの主体による学級遊びなどを大いに取り入れていく。 ・ハッピータイム位置づけの継続。

領域	重点	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
学校教育	よくふれあい	「多様な他者とかかわり合う場」の確保	地域の様々な大人と関わり合う場を確保し、地域のもてる力を有効活用しようとしている。	・太郎山、ごみ、働く人の様子について、地域の方によるお話や講演、見学など、コロナ禍でもできることを行うことができた。 ・地域講師によるクラブ活動や職場体験ができなかったのは残念だった。	B	・子どもたちに、応援団の方々や地域の様子をくわしく伝え、子どもたちからかかわりをつくる活動や場の設定を工夫する。 ・北小まつりで、地域の方のブースを取り入れることの検討をする。
		「地域の多様な人々と子ども、子どもたち同士が関わり合う時間」の確保	地域の様々な人々や友だちと関わり合う活動を大切に活動を展開している。	・「わくわく中庭大作戦」「池復活大作戦」などで、地域の方とかかわり合う活動ができた。 ・児童会活動ではペアでの活動が行えなかったが、子どもたち同士がかかわり合えいながら楽しめる活動を工夫することができた。	B	・常に友とのかかわりのよさや大切さを確かめながら活動に当たり、地域の方々とかかわりへと目が向いていくような活動を工夫する。児童会でのペア活動も、感染状況をみながら復活させる工夫をしていく。

学 校 教 育	よ く 学 び	「算数・外国語・UD・MIM」を中心にした授業改善	全職員が専門派遣講師による授業公開や教材研究を通して、授業改善を図ろうとしている。 学習活動を通して、児童の「喜びをもって心身を躍動させるエネルギー」や「自ら学ぼうとする意欲の強さ」を向上させようとしている。	・全職員の授業公開とはならなかったが、部会を中心に授業について検討し、授業実践につなげることができた。	A	・無理なく授業を見合ったり授業について考え合ったりできるよう、研究部会の時間を定期的に位置づけ充実させていくことで、深い学びについて追究していく。
		「北小学びのスタンダード」（全学年共通で身につける学び方の基本）の推進	教師の指導がなされ、以下のことができている。 1 話す人は一人。 2 呼ばれたら「はい」と返事をする。 3 相手に顔と体を向ける。 4 相手に聞こえる声で終わりまで話す。 5 相手が話し終えるまで聞く。	・常に意識し、必要に応じ確認してきたことで身についてきている。 ・とらわれすぎること、学習活動が制限されることもある。 ・児童アンケートの「友だちと考える意見を出し合ったりすることができる」の評価が低いことから、見直しが必要と思われる。	A	・スタンダードの見直しをする時期に来ていると考える。学びを深めていくために必要なこととして考え直したい。
		総合的な学習の時間と生活科の学習の充実	教師は、子どもが探究的に学ぶ活動を構想し、課題解決力を育てようと指導している。	・子どもの願いをもとに探究的に活動する姿が見られ、その活動が広がった。	A	・子どもの意識を大切にし、活動を創造していくスタンスを大事にする。
	よ く 遊 ぶ	「ハッピータイム」（外遊びの日）等の充実	教師は、子どもと共に遊ぶ等、子どもが外遊びに進んで取り組むような働きかけをしている。	・教師も一緒になって遊ぶことができたが、個々の対応などでできないことも多かった。	B	・ハッピータイム位置づけの継続。
		自主的活動の時間の確保	休み時間が、遊びや、児童の自主的な活動のための時間となるよう指導している。	・朝の学活では週に1度レクの時間を確保し、係を中心とした活動の時間としたことで、自主的な活動となった。 ・よく遊べているが、相手や内容が固定化しつつある。	A	・子どもと共に遊びながらも子どもの姿を見つめることも大切にし、遊びのメンバーが多様化するようにさらに工夫していく。
学 校 運 営	保 護 者 ・ 地 域 と の 連 携	情報の発信	学校（学年、学級）は、教育方針、取組やその成果、連絡など、必要な情報を発信している。	・毎週末の学年だよりだけでなく、頻繁に発行される学級だより、月1度発行の学校だよりと、情報発信ができた。 ・HPへの掲載も定期的に行えた。	A	・HPへの掲載をよりタイムリーにしていく。
		P T Aやボランティアとの連携	学校は、P T Aやボランティアとの連携を十分行っている。	・メール・電話・郵便物を時に応じて使い分け、連絡を取り合うことができた。	A	・地域ボランティアのメールでの連絡体制をさらに整える。
		家庭学習の充実	学校は「紡ぐ」を活用し、家庭学習の習慣化や学習内容の定着・意欲の向上を図る働きかけをしている。	・自分学習を取り入れ、自己課題に取り組めるようにした。 ・さらに定着を図りたい。	B	・学習に合わせ内容と自己課題の内容を、学年の発達段階に応じて組み合わせていく。 ・「紡ぐ」使用を継続する。